

つちだるにし

土樽西地区

(新潟県湯沢町)

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 360ha
- 交付対象事業費 468百万円
- 町人口 7,960人

ポイント

「やすらぎとふれあいの郷」を目指した地域振興。

地区概要

清流魚野川を周遊する道路整備と、老朽化しているJR跨線橋(俗称船沢橋)の架け替えを行い、冬期のスキー客送迎用大型バスの乗り入れ確保と、夏季観光客が魚野川の景観と上越国境の山並みを楽しむことのできるゾーンを創出する。周辺には一部着工している土樽自然公園の継続的整備を行うとともに、地元NPO法人が計画している山野草カタクリの群生地整備や、ホテルが生息する小河川整備計画に対し助成する。

目標

「やすらぎとふれあいの郷づくり」を大目標に、観光の再生(地域資源の有効活用による通年レジャーゾーンの形成)と生活環境の向上(住民にとっても住みよい観光地の形成)を図る。

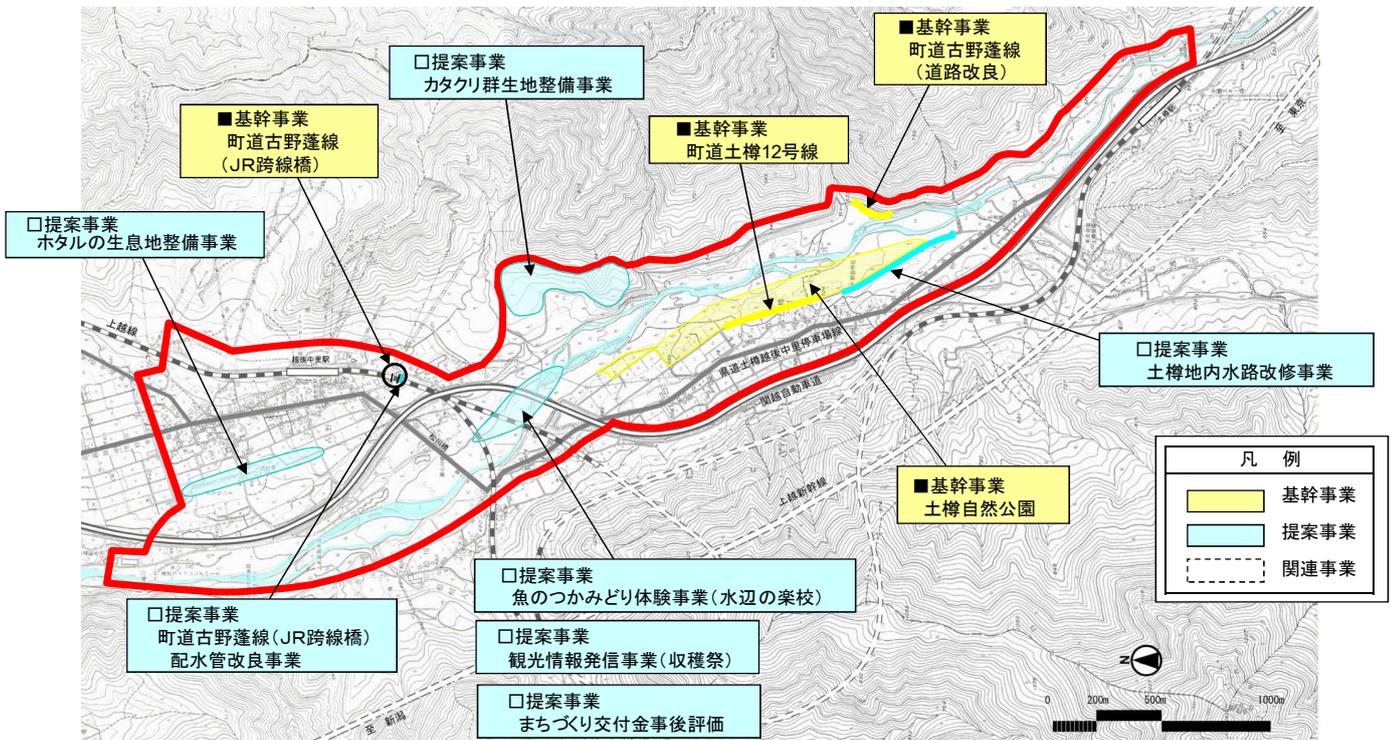
指標

観光の再生、生活環境の改善を図ることによる、観光入り込み客数、住民の満足度の向上を指標とした。

観光入込客数	(人/年)	493,400 (H16)	→	395,000 (H22)
夏期観光入込客数	(人/年)	96,181 (H16)	→	100,000 (H22)
地域住民の満足度	(%)	100 (H16)	→	120 (H22)
マンションオーナーの定住化	(人)	69 (H17)	→	100 (H22)

事業内容

- 基幹事業(422百万円) → 道路(JR跨線橋架替、改良(2路線)L=535m)、公園(1カ所5ha)
- 提案事業(46百万円) → カタクリ群生地整備事業、ホテルの生息地整備事業、魚のつかみどり体験事業(水辺の楽校)、観光情報発信事業(収穫祭)、上水道整備、土樽地内水路改修、まちづくり交付金事後評価



地区の現況と課題

当該地区は、スキー場の開設や上越線の複線化により多くのスキー客が訪れる観光地として発展してきたが、近年ではスキー客の激減により観光が低迷している状況である。

都市マスタープランにおけるアンケート調査（土樽西地域）では、町の目指すべき方向として「観光と保全」、地域のまちづくりの方向として「自然環境と景観を活かしたまちの形成」が望まれているが、他の地域に比べて観光施設が少なく恵まれた地域資源が活かされていない。



一部供用開始された土樽自然公園

提案事業の特徴

カタクリ群生地整備事業

豊かな自然とふれあえるゾーンを形成するため、地元NPO法人が計画している山野草カタクリ群生地の整備を助成する。

ホタルの生息地整備事業

豊かな自然とふれあえるゾーンを形成するため、地元NPO法人が計画しているホタルが生息する小河川整備を助成する。

魚のつかみどり体験事業（水辺の楽校）

子ども達が自然と出会う安全な遊び場・自然体験の場・自然学習の場を創出するため、水辺の楽校プロジェクトを推進する。

観光情報発信事業（収穫祭）

地域の観光情報を発信する取り組みを推進する。



土樽自然公園検討会



整備前跨線橋

計画策定プロセス

都市マスタープラン

平成10年度の「湯沢都市マスタープラン」策定に際しては、地域住民の意向を十分に反映するため、2カ年に渡り住民意向調査を実施し、アイデア等の募集、地域説明会や懇談会を開催し、検討委員会に於いて討議を重ね策定された同地区の「やすらぎとふれあいの郷」を目指した地域振興を基本計画としている。

土樽自然公園検討会

都市マスタープランで地域整備の基本方針に掲げている同公園整備計画について、地元説明会の開催や検討会を立ち上げ2カ年に渡り検討し計画を策定したものを基本計画としている。



整備後跨線橋



カタクリ群生地